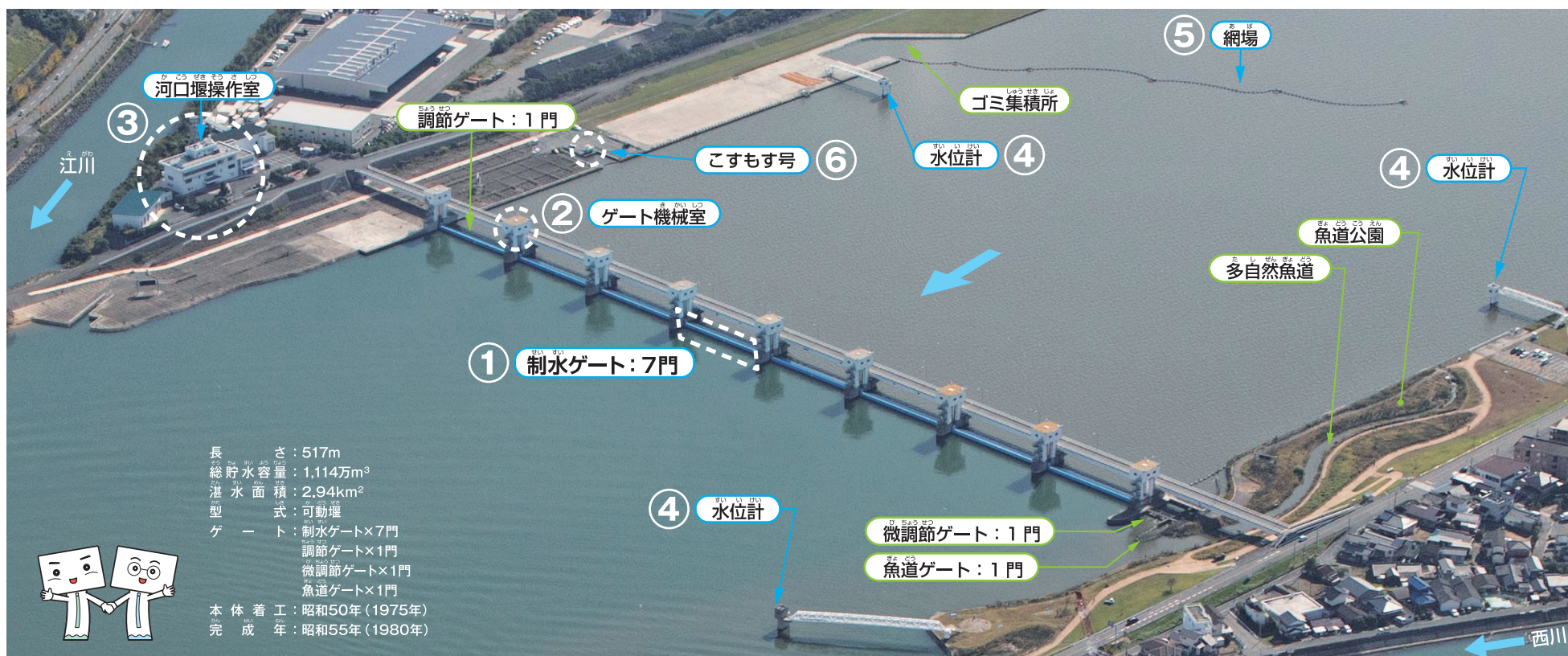
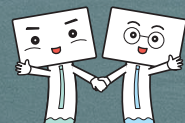


河口堰はこんなところです。

大きなゲートで川の水をせき止めて、水道用水などに使われる水を貯めています。



長さ: 517m
 総貯水容量: 1,114万m³
 湛水面積: 2.94km²
 型式: 可動堰
 ゲート: 制水ゲート×7門
 調節ゲート×1門
 微調節ゲート×1門
 魚道ゲート×1門
 本体着工: 昭和50年(1975年)
 完成年: 昭和55年(1980年)



洪水などで水の量が増えた時には、大きなゲート(制水ゲート) 7門を上にあげ、洪水を安全に海に流します。

① 制水ゲート



※ゲート点検時の写真。点検やゲートの補修時は「鉄の板」で水を止めています。

ゲート1門の重さは約250tです。
 ゲートの両端を、ワイヤーで吊ってゲートを上下します。
 写真、右下の人と比べると、その大きさがわかります。

② ゲート機械室



ゲート機械室には、大きな鉄のゲートを引き上げるため、電気で動く巻き上げ機(直径2.5m)や、非常用エンジンなどがあります。

③ 河口堰操作室



操作室で、ゲートを遠隔操作しています。
 監視モニターでは、堰周辺で危険が無いか確認します。

④ 水位計



河口堰の上下流に2箇所づつあり、上流の水位と下流の水位を確認し、堰の操作を行います。

⑤ 網場



ゲートに流れ着くゴミを、減らすため、網場でゴミを捕獲します。

⑥ こすもす号



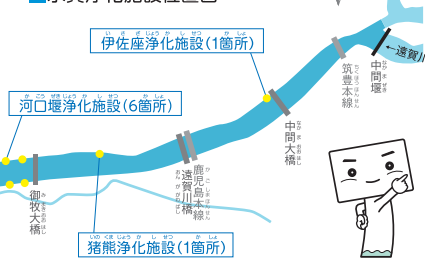
河口堰の働き者、ゴミを集めたり点検をしています。

ためた水をきれいに保つための工夫

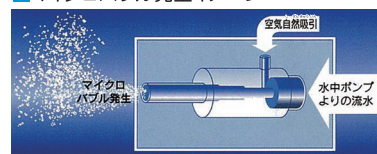
晴れた日が続くと、貯水池の水が緑色になることがあります。これはアオコと呼ばれる植物プランクトンです。このアオコが異常発生すると、水道水がカビ臭くなる原因となるため、水質浄化施設(マイクロバブル)を設置しています。



水質浄化施設位置図



マイクロバブル発生イメージ



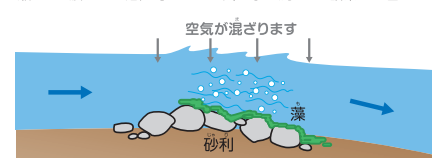
小さな気泡を水中に送りこみ、水の中の酸素を多くして水質改善をしています。

水をきれいに自然の力を利用して

自然の川の瀬にある石の表面にはヌルヌルした薄い膜が付いています。この膜はバクテリアやカビ、藻などの微生物が集まってできています。微生物は、水のなかに酸素があると活発に働き、水の汚れ(有機物)を食べ、無害な水と炭酸ガスに分解します。河口堰の水質浄化施設では、酸素を水の中に送ることで微生物の活動を活発にして水を浄化しています。

自然の川の瀬の働き

瀬では、波立ちや落差等により空気が水に混ざり、酸素が豊富です。



水中微生物の浄化

